

市民 プレス



SHIMIN PRESS

9月1日 第41号

発行人 特定非営利活動法人
「市民フォーラム」

編集人 原 昭二

制作・印刷 デジタル工房

FAX 048 (476) 9111

〒353-0004 埼玉県志木市本町 5-19-15

市民の目線で市民が発信する地域情報紙

WEB SHIMIN
<http://shimin.camelianet.com>

CONTENTS

- PAGE 1 新河岸川広域景観プロジェクト
 - PAGE 2 Global Mind の「地球市民」
～シルクロードのウズベキスタン紀行～
 - PAGE 3 国の重要文化財となった
「勝間橋」など隅田川の三橋梁
 - PAGE 4 インターネットでテレビを見る！
IPTV の規格化が進行中
- 川越女子高校のむかしの話・地域情報

「新河岸川広域景観プロジェクト」がいよいよスタートし、去る七月27日、和光市で第二回講演会が開催された。講師の伊藤庸一教授は、基調講演としてテーマ「身近にあるただならぬ景観」を語り、続いて川に沿った和光市、朝霞市、志木市、富士見市、富士見野市で環境に関心をもって活動する非営利団体の自己紹介が行われた。

県土に占める河川の面積の割合が日本一、「川の国埼玉」を標榜する上田清司埼玉県知事は、河川の浄化、河川の景観を向上させる活動に多大の努力を注いでいる。

県民の意識も高まりを見せ、最近発行された「埼玉県第二回埼玉の川・愛県債」は好評で、多くの金融機関で完売した。

新河岸の積問屋「伊勢安」に生れ、志木高校教諭を務めた斎藤貞夫さんは、埼玉県史編集調査委員などを歴任、新河岸川舟運関連の著書も多い。斎藤貞夫著「川越舟運」、さきたま出版会(昭和57年)、「新河岸川舟運の生活と文化」、川越市文化財保護協会(1995)を参考にして、新河岸川舟運の概略を回顧することしよう。



から新河岸川を利用して運んだことによる。

舟運が本格的になったのは、松平信綱が川越藩主になってからで、領内の伊佐沼から流れる川に多く屈曲をつけ、舟の運行に適するよう水量保持の工事を

「舟運」で繁栄三百年 新河岸川広域景観プロジェクト

新河岸川は、川越市付近で赤間川などの河川を合わせ、荒川とほぼ並行して流れている。東京都北区の岩淵水門で荒川本流と合流し隅田川となる流長約26キロの二級河川である。

この川は、江戸時代初期から昭和初年までの約三百年間、川越と江戸を結んだ舟運が発達し、貨客を運んだ。そのはじめは、寛永十五年(1638)正月、川越仙波東照宮が大火のため消失。その再建資材を江戸

船の種類は、並船・早船・急船・飛切船などがあつて、並船は二心(の)終着地の浅草花川戸まで

で二往復七・八日から二十日ほどかかる不定期の荷舟、早船は乗客を主として運ぶ屋形船。急船は二往復三・四日かかる荷船。飛切船は今日下つて明日上がるという特急便であつた。舟の形は普通「高瀬船」で七・八十石積み、川越方面からは俵物(米・麦・穀物)さつま芋や農産物、木材などを運び、江戸からは肥料類をはじめ、主に日用雑貨を運搬した。

最も川越城下に近い扇河岸は、天和三年(1683)松平伊豆守信輝(信綱の孫)の江戸



8月30日(土)朝霞市リサイクルプラザで勉強会を開く・・・

第二回のテーマは『新河岸川の歴史を学ぶ』

講師は高木文夫氏(元ふじみ野市福岡河岸記念館館長)

歴史を綴る・・・

川越を江戸城北方を守る拠点として位置づけた徳川家康は、川越藩を設け、藩主のうち酒井忠利、松平信綱ほか六人は老中職に任じた。また大都市江戸への農産物や、その他の物資供給の役割を期待した。

家康は鷹狩りを好み、川越近辺でしばしば鹿狩り、猪狩りなどの遊猟に興じた(江戸図屏風にその様子が描かれている)。また、江戸城と城下の構築に当って、しばしば助言を求めた天海僧正に会ったためだったとの説もある。

彼は上野国長楽寺から天正十六年(1588)、武蔵国無量寿寺北院(後の喜多院)に移り、天海を号したとされているが、浅草寺の史料によれば、北条攻めの際、天海は浅草寺の住職忠豪とともに家康の陣幕にいたという。

屋敷が類焼したので、その再建資材を運搬する為に取り立てられた。すでに舟運に使われていた寺尾、牛子河岸、上下新河岸を合せて「川越五河岸」と呼ばれた。

舟運が盛んだったのは、幕末から明治初年までだった。やがて明治二十八年(1895)に川越鉄道、同三十八年に川越電気鉄道、さらに大正三年(1914)に新河岸川とほぼ並行して東上鉄道が開通すると、積荷は鉄道に奪われ、舟運は急速に衰微した。同時期に大正九年より昭和六年(1931)まで、洪水防止のため河川改修が行われた結果、流路が10キロも短縮されて水量が保てず、舟の運行にも支障を来たして舟運は終った。

慶長4年(1599年)、天海は、豪海の後を受けて北院の住職となり、家康の参謀として、朝廷との交渉等の役割を担った。慶長十七年、北院の寺号を喜多院と改め、関東天台の本山とした。また家康より日光山貫主を拜命した。

元和二年(1616)危篤となった家康は、神号や葬儀に関する遺言を天海らに託したという。遺体を久能山から日光山に改葬、輪王寺を建立したが、その後も、二代将軍徳川秀忠・三代家光に仕え、寛永元年(1624)には忍岡に寛永寺を創建した。江戸の都市計画にも関わり、陰陽道や風水に基づいた江戸鎮護を構想したことは良く知られている。

慶長4年(1599年)、天海は、豪海の後を受けて北院の住職となり、家康の参謀として、朝廷との交渉等の役割を担った。慶長十七年、北院の寺号を喜多院と改め、関東天台の本山とした。また家康より日光山貫主を拜命した。

元和二年(1616)危篤となった家康は、神号や葬儀に関する遺言を天海らに託したという。遺体を久能山から日光山に改葬、輪王寺を建立したが、その後も、二代将軍徳川秀忠・三代家光に仕え、寛永元年(1624)には忍岡に寛永寺を創建した。江戸の都市計画にも関わり、陰陽道や風水に基づいた江戸鎮護を構想したことは良く知られている。

写真は喜多院

右手に庫裡、書院、客殿があり、廊下でその左手(写真ほぼ中央)の本堂(慈恵堂)に結ばれている。五百羅漢、仙波東照宮は樹木の陰で見えない。



志木市役所付近
柳瀬川との合流点





遠い国、近い国のことを
もっと知りたい・・・
そこに住む人々の暮らしを
理解したい・・・

シルクロードの

ウズベキスタン紀行

深瀬 克

1・「青の都」 サマルカンド

20年以上前、NHKが放映した「シルクロード」は印象に残る番組だった。喜多郎作曲のシンセサイザーを使ったBGMのつて、石坂浩二のナレーション『われわれ取材班は・・・』の声は今でも耳の底に聞こえる。

「サマルカンド」、何と耳ざわりの良い、ロマンを掻き立てる名前なのだろう。私はこの名前に引き寄せられるように、ウズベキスタン航空の直行便で首都タシケントに向かった。ウズベキスタンはユーラシア大陸のちょうど中央にあり、シルクロードの中間点にある。従って、サマルカンドは「交易の十字路」、「文明の十字路」と呼ばれ、また、その美しさから「青の都」とも呼ばれてきた。

サマルカンドのレジスタン広場に立つと、モスクの屋根や壁

面に貼り付けられたブルーのタイルの色と、空のブルーが渾然一体となつて迫ってくる。決して静まり返っているわけではないのだが、物音が全て消えてしまったような静寂さを私は感じた。シャヒズィンダ廟群のブルーにも圧倒された。何ゆえにこんなにブルーにこだわるのであるのか。ブルーを「空」と見立て、天空の神と結び付けているのだろうか。それとも「水」と見立て、命の水と結び付けているのだろうか。私にはその両方に思える。それほどサマルカンドの建物にはブルーに執着しており、何かを追いつめていく気迫が感じられた。

2・「戦いの十字路」

「遊牧の民」は、何となくゆつたりした人たちに思えるが、本質は全く異なる。ウズベキスタンは内陸国であり、軍事力さえあれば、誰でもどこからでも入れる地域である。言い換えると、誰の土地でもない、占領した者の土地である。遊牧民にとって、侵略・略奪は生活そのものである。従ってサマルカンドは、「交易の十字路」、「文明の十字路」である前に「戦いの十字路」であった。遊牧の民においては、侵略・略奪によつて富を得、部族の者達を豊かにすることが出来る者が優れたリーダーであり、その代表例が「ジンギス・ハン」であった。

さて、ここで紀元前5世紀以降、この地の主要な覇者を列記して見ると、アケメネス朝ペルシヤ、アレクサンダー大王、バクトリア王国、ササン朝ペルシヤ、モンゴル帝国、ティムール帝国、帝政ロシア、ソ連、などである。中央アジアの興亡は半端ではな

い。実にけたたましい程の興亡である。

このような侵略と略奪の民が、それなりに安心して生活が営めるようになったのは何故なのか。現地ガイドに質問すると、何とイスラムの教えが広まったからとのことであった。2001年9月11日のテロ以来、『イスラム教徒＝テロリスト』のようなイメージが強く印象づけられて来たが、そのイスラム教

が侵略と略奪の民に平和と安全をもたらしたと言うのであった。

3・ウズベキスタンの イスラム教

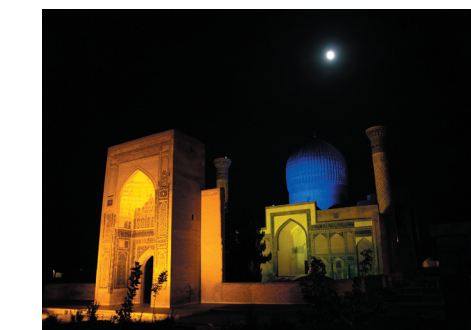
ウズベキスタンに行こうと思った第一の理由は、それがイスラム圏にあるからであった。私は今まで、一度もイスラム圏に入ることが無かつ

た。エルサレム（イスラエル）やイラン・イラクに行ってみたのが本音ではあるが、リスクが大きいとの先入観があり、腰が引けていたのである。そこで、手始めに、何となく穏健そうなウズベキスタンを選んだ。

ウズベキスタンは長年ソ連の支配下にあつたため宗教は弾圧されており、イスラム教も例外ではなかつた。1991年にウズベキスタン共和国として独立

は穏健派だと言うのは本当か。ウズベキスタンではイスラムの姿を見ることができないと感じた私は、次には「政教一致の国イラン」に行つて見なければならぬと強く思った。

4・青空トイレ



ライトアップされた「グリアミール廟」

砂漠の中をバスで移動する時、途中にサービスイリアはもちろんのこと、レストランも売店も無い。従つて、いわゆる「トイレ休憩」は、見通しがききにくい多少の起伏があるところ、または、多少のブッシュがあるところにバスを停車させ、「青空トイレ」となる。添乗員から「バスを降りて、男性は右側に、女性は左側に行つて用を済ませて下さい」との案内があつた。初めての「青空トイレ」のとき、男性たちは抵抗感なくバスを降りた。私は太陽を背にして勢い良くユバリを放つた。その時一閃の風が吹きぬけ、わがユバリは霧状に広がった。その一瞬、七色の虹が見えた（様な気がした）。

一方、ご婦人方を見ると、用を済ませた方は一人もいない。抵抗感があつて、勇気のある人は一人もいなかった。ところが次第にバスでできない状態になり、折畳み傘や大きめの上着などを着て出て行くようになった。そして旅も終わりに近づく頃になると、あの恥じらいのそぶりを見せていたご婦人方が、目を輝かせ、ニコニコ

しながら「青空トイレ」を済ませて車内に戻つて来るではないか。人間は誰でも、原始の姿・自然の姿に戻つた時、なぜか精神的な開放感に包まれ、嬉しくなるものだと理解した。

5・教育制度

現地ガイドに教育制度について聞いてみると、小学校は5年間、中学校は4年間、ここまでの9年間は義務教育で、日本と同じ期間である。制度はあつても中途で脱落するケースが多い途上国の中にあつて、ウズベキスタンはキチンと実施されているらしい。それどころか、高校進学率が75%、大学進学率45%と聞いて驚いた。教育内容のレベルは分らないが、少なくとも教育熱心であり、それが出来る経済状態であることには違いない。

現地ガイドによると、15年前までのソ連のシステムの影響が今でも残っており、教育費や医療費は極めて安いそうだ。そのため、教師や医師の給与も安いとの説明があつたので、それでは教師や医師に良い人材が集まらないのではないかと疑問を



レジスタン広場（サマルカンド）

し、信教の自由が保障された。ウズベキスタンの民族構成は、ウズベク人：71.4%、ロシア人：8.3%、タジク人：4.7%、タタール人：2.4%などである。ウズベク人のほとんどが、スンニ派のイスラム教徒だそう。ソ連時代の影響が大きいのである。うか、この国のイスラム教徒は極めて穏健派のようである。現地ガイドに聞いてみると、メッカに向かって1日5回の礼拝をする者はほとんどいない。また、ラマダン（断食）もほとんど行われていないようだし、旅行中、どこに行つても飲酒はOKだった。何とソフトでルーズなイスラム教徒なのだろう。出会う人たちは、みんな懐かしい。テレビに出てくるテロリストのイメージは微塵も無い。これは一体どうなっているのだ。99%

おみやげ屋の親子 （ヒヴァ）



優しい顔の子供たち



スザニの刺繍をする乙女



投げかけてみた。すると現地ガイドの答えはこうであった。『お金だけで職業を決めるのではありません。教師や医師は社会に役立つ立派な仕事ですから。私はいきなり「メンを二本」を食らい、この国の人たちの志の高さに脱帽した。』

6・ウズベク人の人柄

（一）子供たち

いつものように、その国の人たちのありのままの姿を撮りたいと思い、まず子供たちにチャレンジした。この時のために、いつもの「黒あめ」を用意して行ったが、何とこの子供達は、何かを欲しがらるそぶりは見せず、『写真撮って・・・』と積極的に被写体になってくれる。そして、今撮った写真をデジタルカメラの画面で見せると『ヤッター』と言う顔をしてニコニコ喜んでゐる。この子供たちの屈託の無い笑顔はどこから来るのだろうか。きっとこの子供達は、家族からの愛情を一杯受けているに違いない。家族制度が崩壊し核家族化した日本と違い、この国にはまだ家族制度が残っているのだろう。

旅行に行く前に持っていた「砂漠の民・騎馬民族の末裔・イスラム教徒」のイメージと、実際に会った「柔和・穏やか・笑顔の人たち」とがあまりにかけ離れていたことは、私にとって大きな驚きであり、来てみて本当に良かったと思った。

（三）綿花畑で

バスが急に綿花畑のところで止まった。これから綿花畑の見学だと言う。仕事の邪魔をしに行くなあと思いつつも、皆が三々五々畑の中に入っていくと、彼らは見ず知らずのわれわれ観光客に対して大歓迎してくれた。彼らの賃金は出来高で支払われていると聞くのだが、全く気にしていないようである。永年「生産性・効率性・収益性」などに追いかけてきたわが身を考えると、日本ではとてもこんな余裕のある対応は考えられない。それとも彼らは余ほど「人間好き」なのであろうか。

7・アラル海

アラル海の水位が下がって面積が1/3以下にまでなってしまう自然環境問題になっていることは世界的に有名である。その原因は、2つの河川（アムダリア・シラダリア）の水を灌漑用水として利用し、アラル海に流れ込む水量が激減したためと言われている。私はこの現実について、ウズベキスタン人はどの様に考えているか、現地ガイドに聞いてみた。彼女の答えはこうであった。『アラル海の水量が減っている原因は明確ではない。カスピ海の水量が減っており、アラル海の水が地下を通ってカスピ海に流れていっているのではないかとの説もある。灌漑に問題があるとしても、ウズベキスタン一国の問題では無く、トルクメニスタン・アフガニスタン・タジキスタンなど周辺諸国が関連しているの、解決の仕方が無い』とのことであった。すなわち、ウズベキスタンの耕地面積の8割は灌漑化されており、灌漑施設に

綿花畑で働く人々たち



アムダリア河畔にて



（修士）も終わり、現在ドクターコース博士の1年生だという。日本語は話すだけでなく、読み書きも出来る才媛だ。しかし、純血を守ってきた彼女も間もなくギリシヤ人と結婚しギリシヤに住むので、ガイドの仕事も今回が最後だと言う。彼女のご両親も、時の流れを感じているに違いない。

（2006年11月記す）



隅田川を遡って

景観を創成する橋梁

一番下は永代橋、二つおいて清洲橋



楽しめるテラスもでき、絶え間なく建設される高層ビル群と相俟って、それぞれが個性をもった橋梁は、東京の新しい景観を形成するに至っている。

このとき、三橋梁が揃って「国重要文化財」に指定された意義は極めて大きい。東京都はその他の橋、蔵前、既、駒形、吾妻、白鬚、両国、言問橋も都選定歴史的建造物として指定し、保全してゆく方針を固めたようだ。

国重要文化財指定

平成十九年（2007）四月、国の文化審議会の答申に基づいて指定されたのは、清洲橋・永代橋・勝鬨橋で、都道府県の道路橋として初の指定となった。清洲橋と永代橋は、関東大震災後の復興事業の象徴として、また、勝鬨橋は、我が国で最大規模の跳開橋として、いずれも当時の最先端の技術を駆使して建設され、橋梁技術史上、高い価値をもつ。

隅田川とそこに架かる橋は、江戸時代には浮世絵の背景として親しまれ、明治になると錦絵、小説や演劇の舞台となり、江戸、東京のシンボルともなってきた。最近、隅田川両岸は整備され、散歩が



勝鬨橋

8・現地ガイド「陽子さん」

よって国の基幹産業である農業が支えられている現実がある。このため、アラル海の自然環境問題には「目をつぶる」ことも仕方が無いと思っているようであった。

彼女が日本語に興味を持ち、大学で日本語を学び、マスターコース

現地ガイドは、スペテラーナ

暮しのヒント

インターネットで
テレビを見る！

IPTVの規格化進行中

IPTVは、ドラマやニュースを好きなとき受信し、有料ではあるが、好きなときダウンロードする（ビデオ・オン・デマンドVOD）が利用できる。

手取り早くいえば、録画するためのビデオデッキは不要となり、ダウンロードの煩わしさはなくなる。

IPTVのIPは、インターネット・プロトコルの略すなわちネットワークを使って映像を配信し、地上デジタルの再放送をするサービスで、実はすでに松下などの「アクトビラ」やNTTがサービスを始めていた。ただし現在は、契約とセットトップボックスという専用の端末をテレビに取り付ける必要があつて、機器の仕様がサービスごとに異なることが普及を阻んでいた。

NHK、民放テレビ局NTTなどの通信会社、松下電器、ソニーなどの家電メーカーが、企画統一のための法人組織「IPTVフォーラム」を設立して、年内の実動を目指している。

すでにイタリアではひろく普及しており、このサービスに欠かせない高速通信回線となる、光ファイバーが我が国でもゆき渡つたいま、まさに好機の到来となろう。

埼玉県立川越女子高校の沿革を遡ると、その起源は明治43年1月に認可された川越町立川越女学校となる。翌年4月県立に移管され、同年本校舎一棟が現在地に竣工、大正元年9月講堂、音楽室が竣工した。古絵葉書は、その頃のもので、このシリーズの中には京都の清水寺などがセットされていたので、全国的な風景の一つであつたようだ。もちろん女学校はまだめずらしく、恵まれた資産家のお嬢さんが通つたところだった。

本紙編集人（以下私と記す）の母親は、川越市一番街の生まれ、女子高名簿によると、大正6年第6回卒業（83名）とあつた。生家（市ノ川筆筒店）は間口は広くないが、奥行きは細長

川越女子高校のむかしの話

く、見上げると「時の鐘」が目の前にあつた。家業を継ぐ筈だった長男が戦時下に召集され、終戦の直前に沖繩で戦死したが、従兄弟に当る私は、しばしば肩に乗せられて時の鐘の階段を昇つた覚えがある。

時代は下つて、戦前・戦中の昭和の時代のもの、昭和10年から13年の川越高女同窓会々誌23、25、26号が私の家の土蔵から発見された。その頃姉二人が女子高に通つていたので、嫁入りするとき残していったもののようだ。めずらしくカラーで印刷された口絵が掲載されており、またお習字や作文は、舌を巻く程の出来映えで、会報の表紙もモダンである。古き良き時代の川越の香りが感じられる。



当時志木駅から乗車して川越中学に通学していた男子生徒の一人だった池田要氏（地元の小中学校長を歴任したのち、地域の文化活動を指導されている。切り絵作家として著名）の自伝、池田要編著「昭和還暦六十歳」には、つぎのような記述がある。

『女学生』

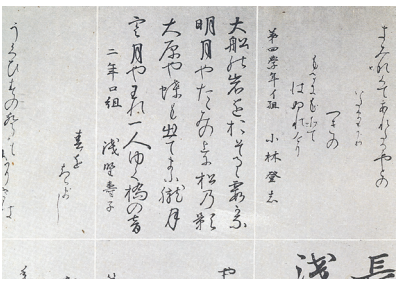
「欲しがりません勝つまでは。」「贅沢は敵。」

耐乏生活の戦時は中学生と女学生と接触も禁止されていた。電車にのる時もそれぞれが二両編成であれば前に中学生、後ろが女学生ということになる。志木方面から川越中学へ通うのは今の川越駅、その当時の西町で降りて後は市街地を対角線に学校まで三十分歩いた。

次の駅現在の川越市駅は六軒町で女学校所在地であつたからである。

女学生の実態も戦時的な行事をからめて私たちは聞いたり、見たりしていただけである。

例えば、大演習があつて浅香宮殿下が当地で休まれるのでその時の接待役に、志木の老舗の娘で川越高女の首席の某が選ばれたと新聞で知り、紀元二千六百年の式典が初雁グラウンドで展開されればお偉方の挨拶よりも、アトラクションの集団



地域情報

9月28日(日)14時開演

志木フィルハーモニー管弦楽団
第15回定期演奏会

指揮 金井俊文

入場料 500 円（中学生以下無料）

お問い合わせ：☎ 048-479-1506

演技で、女学生の日丸行進曲が行われたのに熱い視線を送つたりして、秘かな憧れを胸底深く育んだのである。

以上お許しを得て、引用させて戴いた。



プログラム

ベートーヴェン / 交響曲第 7 番
ドボルザーク / 交響曲第 9 番「新世界より」



写真は第12回演奏会

志木市民会館
パルシティホール

特定非営利活動法人
NPO「市民フォーラム」
この法人は地域住民と行政に対して取材活動を行い、報道によって市民の公共参加を推進し、地域内のメディア事業を行つて、市民のコミュニケーションを向上させることを目的としています。
地域情報紙「市民プレス」はNPO市民フォーラムが編集・発行し、無料で配付します。
◇読者の「オピニオン」意見／考え」を募集します。
TEL090(3048)5502
編集部 原宛にどうぞ



B5版 100ページ(カラー50ページ) 定価 各630円



みやかわ(宮川書店)本店に全巻常置されています
志木市本町1-11-32 TEL: (048)487-1112